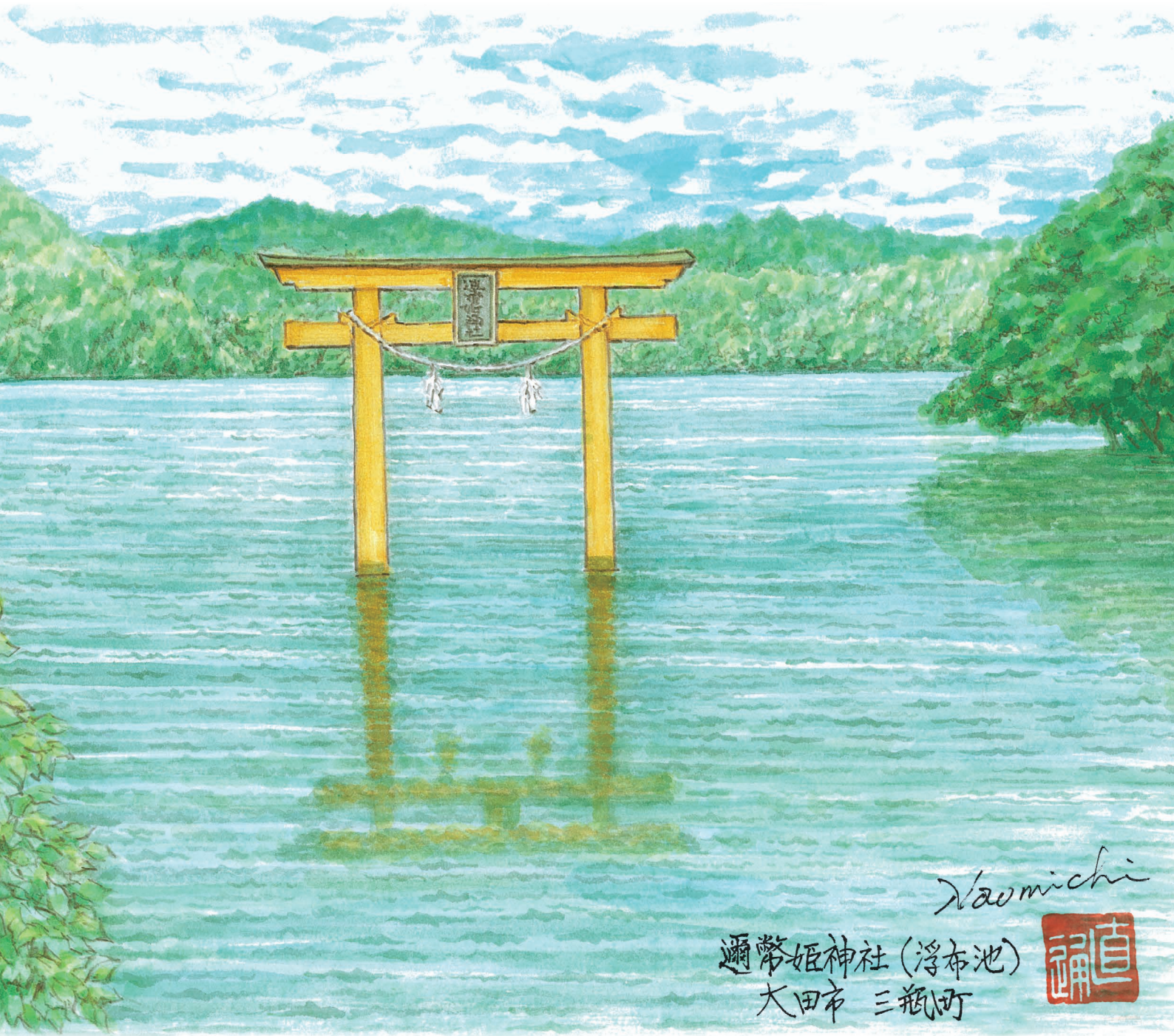


2019
8
August Vol.41

JAしまねびより

今月の特集 JAしまね 第5回通常総代会開催



Naomichi

瀬幣姫神社 (浮布池)
大田市 三瓶町



第5回

通常総代会特集

J Aしまね第5回通常総代会を6月30日（日）、松江市の島根県民会館で開催しました。

2019



議長団



投票風景

当日は、総代定数1,000人（欠員14人）に対し、965人（本人出席575人、委任状5人、書面出席385人）の出席、議長団に、稲田宗総代（くにびき地区本部）、西川友史総代（西いわみ地区本部）の両氏を選出し、各地区本部総代から意見、要望が出される中、前年度事業報告、新年度事業計画など全議案が可決承認されました。竹下組合長が「今年の5月31日をもって政府が定めた『農協改革集中推進期間』が終了した。一定の評価はあったものの、予断を許さない状況は続いている。このような時だからこそ、協同の力を結集するとともに関係機関との連携を強化し、人・農地・地域資源をフルに活用した『農業者の所得増大』『農業生産の拡大』へのさらなる挑戦、そして『地域の活性化』への貢献として、組合員の皆さまの声に基づいた総合事業とJA運営を行っていく」とあいさつ。

来賓の丸山達也島根県知事からは、「昨年6月に県が掲げた農業産出額100億円増加の目標に向け、先般JAグループ島根と島根県の間で目標の早期達成に向けた共同宣言を行い、車の両輪として双方が全力を尽くすことを改めて宣言した。令和という新しい時代にふさわしい積極的な姿勢で連携関係を構築し、水田園芸をはじめとする魅力ある農業の確立、島根の強みを活かした特色ある生産の振興、地域を支えていただく中核的な担い手の確保を強力に推進していきたい。活力ある農業・農村の実現に向けて、引き続き全力で取り組んでいく」との言葉をいただきました。

また、役員改選を行い、その後の理事会において新組合長に石川寿樹の就任が決定しました。石川新組合長のもと新たな執行体制がスタートしました。

平成30年度 事業報告

平成30年度は、経済の緩やかな回復の中、企業の設備投資は堅調に推移し、個人消費も持ち直しの傾向となった一方、世界経済の緩やかな減速を背景に輸出は伸び悩み、景気の足踏み感が見られました。

また、海外では米国と中国の経済対立による貿易戦争とも呼ばれる関税政策の応酬や英国のEU離脱を巡る混乱、リーダー照射事件や元徴用工問題による韓国との関係悪化など、国際的な政治・経済の先行きも不透明感が高まっています。

島根県内の経済を振り返ると、雇用情勢は改善の動きが見られ、個人消費も緩やかな持ち直しの動きが見られるものの、少子高齢化、人口減少は一段と進展していく見込みであり、景気回復の実感を得るには至っていません。

農業情勢では、豪雨や台風、地震など多くの自然災害が発生し、全国各地で農産物・農業施設等に甚大な被害をもたらした他、9月に発生した豚コレラはいまだ終息の気配が見えず、復興・防疫の取り組みを引き続き進めていく必要があります。

国際貿易交渉では、平成30年12月にTPP11、平成31年2月に日EU・EPAが発効するなど、関税の削減や撤廃に向けた動きが始まっています。今後、米国との二国間交渉が開始される見込みであり、これらの動向について引き続き注視していく必要があります。

組織情勢では、平成30年6月に公表された農

林水産省による「農協の自己改革に関するアンケート調査」の結果で浮き彫りとなった、自己改革にかかるJAの取り組みと認定農業者等の認識との乖離について、解消に向けた担い手との対話を一層進める必要があります。また、農協改革集中推進期間が期限を迎えることから、平成30年12月から取り組みを始めた「JAの自己改革に関する組合員調査」の結果を受けた組合員との関係強化やJAへの理解促進に向けた取り組みについても引き続き進めていく必要があります。

こうした状況の中、平成30年度は「農業戦略実践3カ年営農計画」の最終年度として、県や市町村、関係機関と連携し、営農指導と経営指導を通じた農業所得の増大、農業生産の拡大に向けた取り組みを実施しました。

取り組みの結果、販売品販売・取扱高が37,752百万円、購買品供給高が33,915百万円、貯金残高が977,670百万円、貸出金残高が298,851百万円、長期共済保有高3,438,480百万円となりました。また、財務状況の安全性を示す指標である自己資本比率は14.06%となりました。

収支面については、事業利益が1,628百万円、経常利益は2,594百万円。当期剰余金は1,869百万円となり、前年度実績を大きく上回りましたが、貸倒引当金の算定方法を変更したことにより、特に信用事業において貸倒引当金戻入益が933百万円発生したことが主な要因です。

財務・事業成績の推移

(単位：百万円)

区分	項目	平成29年度	平成30年度
財務	事業利益	1,016	1,628
	経常利益	2,189	2,594
	当期剰余金	609	1,869
	総資産	1,092,634	1,113,478
	純資産	77,986	79,235
信用事業	貯金	984,693	977,670
	預金	499,645	522,005
	貸出金	299,671	298,851
	有価証券	167,390	155,212
	国債	80,375	78,123
	その他	87,015	77,088
共済事業	長期共済保有高	3,541,460	3,438,480
	短期共済新契約掛金	10,184	9,805
購買事業	購買品供給高	34,014	33,915
販売事業	販売品販売・取扱高	38,129	37,752

(注1) 貯金は譲渡性貯金を含む。

(注2) 販売品販売高・取扱高は受託販売品と買取販売品の合計。

平成30年度(第5事業年度)剰余金処分

(単位：円)

1. 当期末処分剰余金	2,643,671,345
2. 剰余金処分量	1,983,530,105
(1)利益準備金	374,000,000
(2)任意積立金	1,386,464,000
農業振興積立金	200,000,000
農業災害積立金	200,000,000
教育研修充実積立金	150,000,000
税効果積立金	236,464,000
信用事業システム開発積立金	200,000,000
BIS規制強化対応積立金	200,000,000
施設等更新積立金	200,000,000
(3)出資配当金	223,066,105
3. 次期繰越剰余金	660,141,240

(注1) 出資配当金は年1.0%の割合である。

(注2) 次期繰越剰余金には、営農指導、生活・文化改善事業の費用に充てるための繰越額93,486千円と、地区本部業績還元のために繰越額100,000千円が含まれている。

令和元年度 事業方針

農業振興

方針

令和元年度は「第2次農業戦略実践3カ年営農計画」の初年度となり、第1次計画での成果と反省を踏まえ、島根農業のモデルとなる経営形態を提案することにより農業戦略を明確にし、多くの組合員がJAに結集することで「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現につながる目標の達成に向けて取り組みます。

また、JAしまねがリーダーシップをとり、更に組合員の経営基盤の強化を進め、島根県が目標に掲げた「農業産出額目標730億円」「生産農業所得目標300億円」の目標達成に向け取り組みます。



重点事項

- ① 新規就農者を含む地域の担い手育成
- ② 担い手経営体の経営課題に対応した農業経営管理支援
- ③ JAの総合力を発揮した事業承継支援の実施
- ④ 農作業等の安全・安心対策
- ⑤ 営農指導での生産者貢献
- ⑥ 農業振興支援事業の実施
- ⑦ 「重点推進5品目」の拡大を核とした水田での園芸振興の推進
- ⑧ 主食用米の「きぬむすめ」「つや姫」への品種誘導
- ⑨ 島根県産農畜産物の安全安心の取り組み
- ⑩ 担い手の労力軽減の取り組み

全般

くらしの活動

豊かなくらし・地域づくりを目的とし、地域活性化の核となる取り組みとしてすすめます。

また、食と農、地域とJAを結ぶ取り組みとして、青年組織、女性部をはじめ組合員や地域住民など幅広い参

加・参画（アクティブ・メンバーシップ）を促進し、農協運動の活性化を図ります。

販売事業

しまねブランド商品として市場や卸に頼らない県産農畜産物の販売の強化に取り組みとともに、生産基盤の維持・拡大を図るため、「農業戦略実践3カ年営農計画」に掲げた「販売を起点としたものづくり」の実現に向け、行動計画を策定し進捗管理を行うことにより、生産現場での営農指導と販売を連携させた実践策を講じます。

購買事業

農家組合員の営農を支え地域農業の振興に資するため、営農指導部門・販売部門・TACと一体となって効率的な購買事業を進め、農家組合員の生産コスト低減と組合員サービスの充実・強化に努めます。

また、組合員・地域住民の暮らしを支援し、地域の活性化に貢献するとともに、時代の変化・多様なニーズに対応した商品の提供が行えるよう、生活購買事業・店舗購買事業・自動車燃料

事業を積極的に取り組み、より一層のサービスの充実に努めます。

信用事業

総合事業の強みを活かして他業態と差別化した価値を提供しつつ、コスト削減につながる事業見直しにより持続可能な収益構造を構築し、農業・地域から一層必要とされる存在を目指します。

共済事業

組合員・利用者のくらしを守り、農業経営と地域社会に貢献する活動を展開するため、地域密着の事業活動である3Q訪問活動を通じて「ひと・いえ・くるま」の総合保障の提供及び「農業リスク診断活動」を実践し、一層の『信頼』を高めるとともに、次世代・次世代など新たなJAファン（理解者）づくりにより事業基盤の維持・拡大を図ります。

また、高位均質で満足度の高いサービスの提供、適正・迅速かつ効率的な事務処理の実施及びLabels（※携帯用タブレット端末）の全面活用により事業の効率化・機能強化を図り組合員・利用者ニーズに応えます。

新役員代表挨拶



代表理事組合長
石川 寿樹

この度、竹下前組合長の後を受けて、組合長に就任致しました石川でございます。もとより、その器ではございませんが、よろしくお願い申し上げます。

若干自己紹介をさせていただきますと、わたしは昭和27年生まれ、満66歳になります。昭和52年に当時の出雲市農協に入り、爾来42年に亘り、JA一筋に歩んでまいりました。さて、7月より3年の任期をいただいたわけですが、わたしに課せられた役割は、大きく二つあると思っております。

その一つは、「統合の効果」を更に発揮することです。平成27年3月にJAしまねが誕生し、早いもので4年余りが経過しました。徐々にその成果が現れつつありますが、とは言え、統合して良かったなあと実感

できるようなレベルには達していません。まだまだ調整すべき事項がたくさん残っていますので、速やかに統一していく必要があります。

そして今一つは、「自己改革」の更なる実践です。政府主導の農協改革の集中推進期間は本年5月を以て一応のピリオドが打たれました。しかしながら、われわれ自らが掲げた「自己改革」は、むしろこれから本番です。例えば、柱の一つである「農業者の所得増大」については、生産資材価格の引き下げ等に取り組んでまいりましたが、まだ引き下げの余地があると思っております。

また、「農業生産の拡大」についても、米の買取制度や独自の農業振興支援事業により、販売高は統合前と比較すると、平成30年度は13億円増の377億円となりました。更に令和3年度を最終年度とする次期中期経営計画では、39億円増の416億円の計画を立てています。自ら立てた計画を絵空事で終わらせるのではなく、目に見える形で実践していくことが、何よりも重要な使命だと思っております。

最後に、今後一層のご理解とご協力をお願い申し上げます、ごあいさつといたします。

退任役員代表挨拶



前代表理事組合長
竹下 正幸

退任にあたりごあいさつを申し上げます。

先の通常総代会を以て、任期満了により平成28年6月より務めてまいりました、代表理事組合長を退任いたしましたこととなりました。

在任中大過なくその任を果たせましたのも、組合員の皆様をはじめ、関係機関、各団体、地域の皆様、そして職員の皆様など、本当に多くの方々のご理解とご協力の賜物と、心から感謝を申し上げます次第でございます。

振り返ってみますと、JAしまねの発足以後、「信頼され、選ばれ、ご利用いただけるJA」を目指し、統合メモリの創出に向けて事業改革や運営改革などに取り組みとともに、「儲かる農業の実現」を目指し、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を重点課題として自己改革に取り組んで参りま

した。

また、JAの経営は経済情勢と社会情勢の変化もあり、非常に厳しい状況にあるなか、組合員の皆様の負託に因應するためには、JAの健全経営を行う体制整備に併せ、事業改革を実施する事が、私たちに課せられた課題であります。このような中、第4回通常総代会において、次期に向けた運営改革の決議をいただき、平成30年11月の臨時総代会では役員定数の見直し等の新たな運営体制についてご承認いただき、体制整備を行うことができました。一方、事業改革では、信用共済事業において、本店と支店を直結する文鎮型組織とし、事業部制的運営とするなど、一定の方向性を決定しましたが、営農経済生活事業につきましては、取り組まなければならない今後の課題が残存しています。JA改革においてはTPPやTAG等、JAを取り巻く農業情勢は依然厳しい状況が待ち受けておりますが、今後も組合員の皆様のご協力をいただき、役職員一同が共通認識を持ち、一丸となって取り組むよう期待しています。

組合員の皆様には、引き続きのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、心からの感謝を申し上げます、退任のごあいさつといたします。

本当にありがとうございます。



新役員紹介

J Aしまねの発展につとめてまいります。
よろしくお願い致します。



常務理事
(信用、共済)
有田 吉弘



常務理事
(営農、経済)
石川 薫



代表理事専務
高木 賢一



代表理事副組合長
山根 盛治



代表理事組合長
石川 寿樹



くにびき地区本部
常務理事 本部長
栗原 令



理事
佐々木孝子



理事
高野 智子



理事
諏訪 智子



理事
小村 伸治



やすぎ地区本部
理事
根来 茂樹



やすぎ地区本部
常務理事 本部長
伊藤 精一



くにびき地区本部
理事
多久和 宏



くにびき地区本部
理事
田中 鈴夫



くにびき地区本部
理事
菅井 一



隠岐地区本部
常務理事 本部長
佐々木賢治



雲南地区本部
理事
澤田 秀樹



雲南地区本部
理事
石原 公夫



雲南地区本部
理事
新田 昭喜



雲南地区本部
常務理事 本部長
竹下 克美



出雲地区本部

理事
藤江美由紀



出雲地区本部

理事
福島 隆



出雲地区本部

常務理事 副本部長
珍部 誠



出雲地区本部

常務理事 本部長
岡田 達文



隠岐どうぜん地区本部

常務理事 本部長
新谷 徳昭



斐川地区本部

理事
青木 広幸



斐川地区本部

常務理事 本部長
山根 善治



出雲地区本部

理事
永瀬のり子



出雲地区本部

理事
伊藤 篤男



出雲地区本部

理事
立脇 渉



いわみ中央地区本部

常務理事 本部長
佐々木 豊



島根おち地区本部

理事
山田 康司



島根おち地区本部

常務理事 本部長
日高 光弘



石見銀山地区本部

理事
川上 隆



石見銀山地区本部

常務理事 本部長
山崎 辰次



西いわみ地区本部

理事
青木 和憲



西いわみ地区本部

理事
中島 重秋



西いわみ地区本部

常務理事 本部長
田村 清己



いわみ中央地区本部

理事
藤若 将浩



いわみ中央地区本部

理事
中東多久夫



監事
川神 守



監事
岡 睦夫



常勤監事
田尻 宏



常勤監事
青砥 正幸



代表監事
名原 佳宏



雲南地区本部

執行役員副本部長
源 之美



くまびき地区本部

執行役員副本部長
奥原 展芳



員外監事
山川 博司

第5回 総代会



Q 1 : 正組員、准組員ともに減ってきている。このことについて、これまでの取り組みや今後の対応策を聞きたい。

A 1 : 統合以前より高齢化や死亡による脱退が進む一方で、若年層の加入が進まない状況にあります。今後の大きなテーマとして、我々の組織基盤維持の観点で検討して参ります。その中で、平成29年度より一戸複数正組員化の取り組みを展開しており、今年度も継続して取り組む計画を立てています。また、増資の取り組みとして役職員による増資運動を前年度と今年度の2年間取り組む予定としています。

Q 2 : 農林中金からの人材受け入れの背景や、奨励金の引き下げの課題への対応等の考えを伺う。

A 2 : 農林中金は農業振興への資金支援が厳しくなるなか、全国で400名、島根県に3~4名程度の農林中金の職員を派遣する人的支援に方針が変わってきています。また今回の役員改選では農林中金から理事を受け入れる提案としています。奨励金の引き下げは以前から話があり、大変厳しい内容の中で中期3カ年計画を策定いたしました。事業改革を含めてこれから取り組んでいく考えです。

Q 3 : 貸倒引当金の算出方法の変更に伴う戻入益10億円とあるが、変更となった経過を確認したい。

A 3 : 公認会計士監査や財務処理の基準例が変更になり、これまでの税法基準から、貸倒実績率に基づく引当てを合理的な基準として引当てることとなりました。その結果、これまで引当てていたものを戻し入れることになりました。

Q 4 : 県内農業の持続可能な発展に向け、様々な担い手・後継者対策がなされてきたが、目覚ましい解決に

は至っていない。これからは行政との連携を更に進め対応することが求められるが、JAしまねの社会的使命を今一度伺いたい。

A 4 : 非常に大きな課題であり、JAのみならず島根県をあげて取り組むべき問題と思っています。特に農家を中心とした中山間地の人口減少には、産業政策、農業振興政策、そして住みよい町づくりといった課題のもとに、行政や地域の皆さんと一緒に取り組む問題と思っています。その中で、JAも率先して取り組んで参ります。

Q 5 : 教育研修機能を県中央会へ移管するとあるが、考え方やあるべき姿を伺う。また事業総利益に基づく配置ではなく、農家が必要とする人員配置や要因管理をお願いしたい。農業は土地と結びついた生産作業であり、農業者に寄り添った職員の教育が中央会にできるのか不安に感じる。地元に着した教育研修をもっと取り入れてほしい。

A 5 : 統合により教育研修の担当部署を県中央会からJAしまねの内部部署に移管した経過があります。その後の検討で、教育研修についてはJA内部よりも外部の機関がJA職員研修、育成にあたるべきであるとの考えがまとまりました。全国中央会が教育研修の統括機関として存在している中、全中、県中にてJAしまねの職員教育、人材育成を行うかたちに体制を変更するものです。またJAの事業は総合事業ですので、人員配置にあたっても事業の特性、実態を念頭におきながら基準を定め今後再配置等を実施して参ります。地域に着した教育研修についても検討して参ります。

このほかにも幅広くご意見をいただきました。



報告事項

「JAバンク基本方針」の変更について

第15号議案
令和元年度における監事の報酬額の決定について

第14号議案
令和元年度における理事の報酬額の決定について

第13号議案
退任監事に対する退職慰労金の支給について

第12号議案
退任理事に対する退職慰労金の支給について

第11号議案
令和元年度指導事業に要する経費の賦課及び徴収の方法の決定について

第10号議案
会計監査人の選任について

第9号議案
経営基盤強化積立金規程の一部改正について

第8号議案
監事監査規程の一部変更について

第7号議案
規約の一部変更について

第6号議案
定款の一部変更について

第5号議案
役員を選任について

第4号議案
令和元年度事業計画の設定について

第3号議案
令和元年度事業計画の設定について

第2号議案
令和元年度事業計画（令和元年度）令和3年度の設定について

第1号議案
平成30年度事業報告及び剰余金処分案について

本総代会にて付議した議案は次のとおりです。



「JAしまね自己改革取組宣言」 に基づき、自己改革を一層進めて まいります。

6月30日の第5回通常総代会において、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つの基本目標の実現に向けて、引き続き、組織を挙げて取り組む旨の「自己改革取組宣言」（案）が満場一致で採択されました。

JAしまね 自己改革取組宣言

JAは、農畜産物の販売事業のほか、信用事業、共済事業などの様々な事業を、営農相談やくらしの相談活動などを通じて総合的に結びつけ、農業振興や地域づくりに取り組んでいます。「総合事業」として実施しているからこそ、JAの経営基盤が安定し、組合員の負託に応えることが可能となっています。

また、人口減少や高齢化が進むなか、JAの各事業・サービスの提供による生活インフラ機能の発揮と、「食と農」、「助け合い」の視点から、組合員だけでなく地域住民の方々にも参加いただく「JAくらしの活動」の展開が、ますます重要なものとなってきています。

近年、農業者である正組合員に加え、JAの事業を利用し、JAの理念・活動に賛同いただける地域住民の方々の准組合員加入が増えています。准組合員の立場から、JA、農業者が進める「食の安全・安心」の取り組みを「地産地消」という形で後押しするとともに、JAが行う各組織活動への参加によって、地域農業を支える「農業振興の応援団」となっています。正組合員と准組合員の一人ひとりが力を合わせ、地域の農業とくらしを支えあっているのです。

こうした環境・背景を踏まえ、JAしまねは自己改革の3つの基本目標の実現に向けて、組合員の皆さまとともに、以下のとおり組織をあげて取り組みを進めてまいります。

記

1. 農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化に取り組めます。
2. 協同組合の原点に立ち返り、組合員の皆さまとの話し合いを、より一層深めていきます。
3. これまでも、これからも、JAしまねは総合事業を展開し、地域にとって、なくてはならない組織であり続けます。

以上

令和元年6月30日

第5回 島根県農業協同組合 通常総代会



雲南

農業者・女性部健診新設 対象広く項目充実

雲南地区本部とＪＡ島根厚生連は、農業生産や日々の生活の土台となる「健康づくり」を支援しようと、今年から新設した「農業者・女性部健診」を6月21日に同地区本部で実施しました。

農業従事者や女性部員をはじめとした組合員が対象で、一般的な健康診断の項目にはない、胸部ＣＴ検診（40歳以上）や甲状腺検査などがセットとなって、ＪＡグループの助成により7,000円で受けることができます。健診を受けた女性は「かかりつけ医では受けられなかった血液、尿検査の他にも色々検査できてよかった。来年も受けたい」と健診内容に満足した様子でした。

ＪＡ島根厚生連健診普及部の江角幸夫部長は「受診者アンケートでは約40%の方が、毎年健診を受診していない現状にあり、ＪＡグループが魅力ある健診を提供し、直接、組合員に呼び掛けることは大いに意義がある。今年は県内全11地区本部で実施を予定しており、各地区本部と協力して取り組みを進めたい」と話しました。



「農業者・女性部健診」を受ける女性

くにびき

カボチャを重点振興品目に！ 6月下旬より共販出荷を開始

くにびき地区本部は7月2日、中海干拓研修センターで「カボチャ出荷検討会」を開催し、生産者やＪＡ職員、各市場担当者など43名が参加しました。

6月27日より、松江市内の市場をはじめ広島や大阪の市場にも共販出荷を開始しており、品質や生育状況、出荷する際の規格や品質基準、収穫適期、保存方法を確認する目的で開催しました。

当日は、松江合同青果や広印広島青果、福山大協青果、東果大阪の担当者が市場の情勢について解説。続いて、営農指導課の犬山浩二園芸特産係長が「収穫後に高温・乾燥条件下に1週間おくことで腐れを防ぎ、甘みも増す。収穫適期を逃さず、適切な保存に努めてほしい」と説明しました。その後、参加者は出荷前のカボチャを実際に手に取ったり、試食したりするなど品質や味を確認しました。

同課の岩田政彦課長は「昨年より重点振興品目として取り組んでいる。ほくほくとした食感と濃厚な甘みを堪能してほしい」とＰＲしました。

参加した吉岡清さん（朝酌町）は「コクがあり、おいしいカボチャなのでたくさんの方に食べてもらいたい」と話しました。

今年度は共販面積を1.6haから3.5haに拡大。出荷量は92tを計画しており、出荷は8月末まで続きます。



カボチャを手に取り状態を確認する参加者

隠岐

ＪＡ女子大学で ぶどう狩りを体験

ＪＡしまね女子大学隠岐キャンパスは7月27日、第8回目の講座として日帰り修学旅行を行いました。朝早くから高速船レインボーに乗船し、出雲地区本部管内でぶどう園を経営する大社観光ぶどう園へ出かけました。ぶどう園では、今が旬の「デラウェア」狩りを体験し、出雲地区本部管内の特産品であるぶどうを味わうことができ、参加した生徒からは「甘くて大変おいしい」と好評で、1人2房程度はぺろりと食べていました。今年は天候不順等の影響で良品が例年に比べて少ないとのことから、生徒からは「良品のぶどうが沢山ある時にまた来たいね」と声が聞こえました。

ぶどう狩りの後は、歴史を感じる体験を目的に松江の堀川遊覧船に乗船しました。隠岐の人間は船に乗る機会が多いものの、風情のある松江城の周辺をゆったりと遊覧できたことは、一緒に旅をした者同士の良い思い出になりました。



やすぎ

ホック食育フェスタで 金芽米をＰＲ

やすぎ地区本部は松江市のくにびきメッセで6月22・23日の2日間、(株)フーズマーケットホックが主催する「ホック食育フェスタ2019」に出展しました。

同地区本部はＪＡしまねの「金芽米」と「ロウカット玄米」をＰＲするため、試食や健康特性の説明などを行い、来場者に好評でした。また、家庭でも食べてもらおうと、サンプルとして金芽米3合を400袋プレゼントし、サンプルを受け取った来場者は「今日いただいた金芽米を家族と一緒に食べてみます」と話しました。

今年は食品メーカーをはじめとする約60のブースが出展、2日間で約1万名が来場し大いに盛り上がりました。精米センターの三島裕所長は「金芽米のおいしさを実感してもらおう良い機会となった。さらに金芽米の認知度を高めたい」と話しました。



斐川 美肌はとむぎ料理講習会

斐川地区本部よい食工房は7月9日、ひかわあぐりキッチンふぁみーゆで「誰でも簡単・お手軽レシピ」と題して「美肌はとむぎ料理講習会」を開催しました。はとむぎに興味を持つ13名が参加し、郷土マクロビアンの岡里美さんを講師に招き、「はとむぎ茶飯」「とうもろこしとはとむぎのスープ」など計5品を調理しました。出来上がった料理を岡さんと一緒に堪能しながら、はとむぎについての効果・効能についての説明を受けた参加者は、「地元こんな素晴らしい食材があったなんて驚いた!」「健康と美容のためにも、これからも家族で食べていきたい」などと感想を話しました。健康・美容志向が高まる中、よい食工房では斐川町産のはとむぎの良さを多くの人に知ってもらうために、このような料理講習会を今後も継続して開催していく予定です。



石見銀山 大田市長へメロンを贈呈

温泉津町施設園芸組合の岩倉勝政組合長、厚朴邦広副組合長は7月11日、大田産メロンPRのため大田市役所を訪れ、楯野弘和大田市長に「アムスメロン」を贈呈しました。同組合では7月3日から「アムスメロン」の出荷が始まっています。

早速、試食した楯野市長は「とても甘くておいしい」と感想を話しました。

岩倉組合長は「糖度が高く、美味しいメロンに出来上がっている」と語りました。

大田市長へのメロン贈呈は地元産のメロンを広くPRしていきたいという思いから企画しています。

楯野市長は「暑い中の作業だが、体調に気をつけながら地域のために頑張っていたください」と激励しました。



市長（左）にメロンを贈呈する岩倉組合長（中央）、厚朴副組合長

隠岐 どうぜん 令和初の家畜市場の開催

7月3、4日の両日、新元号初の隠岐どうぜん管内家畜市場が開催されました。隠岐諸島では、春（3月）、夏（7月）、秋（11月）の年3回家畜市場が開催され、島の一大イベントとして風物詩となっています。隠岐どうぜん管内は、知夫里島（知夫村）、中ノ島（海士町）、西ノ島（西ノ島町）の3島3町村で構成されており、各町村に家畜市場が常設されていて、畜産の重要性が理解できると思います。3日の知夫市場を皮切りに、海士市場、翌4日の西ノ島市場と、子牛240頭、成牛22頭の合計262頭の上場となり、前回（3月）市場より上場頭数は減りましたが、平均価格は若干上昇しました。畜産総合施設として開設した西ノ島家畜市場が、関係者の協力によりスムーズな運営となり、無事1周年を迎えた記念を込め、前日の2日に当施設中央広場にて、購買者、畜産農家とJAをはじめとする関係者による、バーベキュー意見交換会を開催しました。出席者の貴重な意見を聞くことができ、有意義なひと時となりました。また、今後もこのような場を設けてほしいとの声が多く聞かれ、畜産の活況に結び付けたいと同時に大きな励みになりました。



出雲 島根県産シャインマスカット 出荷本格化を前に目合わせ

出雲地区本部は7月15日、同地区本部荒茅ぶどう集荷所で令和元年産「シャインマスカット」の出荷目合わせ会を開きました。出荷の本格化を前に、生産者ら約150人が等級規格を確認しました。

同地区本部管内の「シャインマスカット」の作付面積は右肩上がりで増えており、今年産は28ヘクタール（前年比16%増）で栽培します。ギフト需要に対応するため8月上旬までの出荷量を伸ばし、管内の販売金額3億円を目指します。

同部会大粒系部の吾郷均部長は「品質重視で他産地と勝負していく。商品を扱っているという意識を持って、選果選別を徹底してほしい」と呼びかけました。

JAしまねでは、激化する産地間競争に対応しようと、今年産から県下の「シャインマスカット」の共同計算を実施しています。一元的に管理して品質の高位平準化を図るとともに、ロットの拡大で売り場確保、県産「シャインマスカット」の地位向上を図ります。



出荷規格を確認する生産者

西いわみ

益田市長に旬のメロンと ブドウを贈呈しました

旬を迎えるメロンと、大粒系ブドウを味わってもらおうと7月10日、益田メロン部会(部会長大場尚俊)と西いわみぶどう部会(部会長岩本和雄)が揃って益田市山本浩章市長を訪ね、「アールスメロン」と「シャインマスカット」「巨峰」「ピオーネ」を贈呈し益田産農産物をPRしました。

当日は同市常盤町の市長室に、大場部会長と岩本部会長が化粧箱に入った「アールスメロン」と「シャインマスカット」「巨峰」「ピオーネ」を持参しました。

試食した山本市長は「メロンは口当たりが良くとても甘い。ブドウも香りが良くおいしい」と喜びました。

JAでは、今後も管内農産物のPRや販売促進に向けた取り組みを継続していく計画です。



島根
おおち

ケイトウ栽培いよいよ大詰め

島根おおち女性部では営農活動として「ケイトウ栽培」に取り組んでおり、今年で8年目をむかえました。2月に開催した「ケイトウ栽培講習会」を皮切りに、4月中旬からは各支部で「種まき講習会」、5月には「定植に向けた栽培現地講習会」、6月には「栽培管理講習会」、7月には「出荷目合わせ会」を開催し、出荷のピークとなるお盆に向け準備を行っています。天候に左右され、毎年様々な課題もありますが、4月に一粒一粒丁寧に蒔いた種は順調に成長し出荷時期を待っています。今年も「赤」、「オレンジ」、「ピンク」3色のケイトウの出荷を予定しています。

島根おおち女性部では「ケイトウ栽培」の活動を継続していくことで、ケイトウ栽培の輪、そして女性部活動の輪を拡げていきたいと考えています。



ケイトウの生育状態を確認する島根おおち女性部寺内部長

本店

アグリミーティング& 農機総合展示会 大盛況!

6月13、14日の2日間、松江市のくにびきメッセで「アグリミーティング2019」と「第9回農機総合展示会」を開催しました。

今年のテーマは「『新時代』みんなで創るしまねの農業～島根の農業半端ないって!!～」に設定。相談コーナーなど様々なブースや、最新農業機械を展示し、担い手の皆さまが抱える様々な課題の解決に向けて、JAグループの総合力を発揮し提案しました。県内で生産された旬の野菜や果物、加工品を販売し島根農業の魅力を発信する「島根大産直市」も同時に開催し、2日間で担い手や一般消費者あわせて5,500人の皆さまにご来場いただきました。

メインステージでは「下町ロケット ヤタガラス編」の登場人物のモデルとなった北海道大学大学院農学研究院副研究院長・教授の野口伸氏から、スマート農業技術の必要性や実用化が期待される最新の技術について講演いただいたほか、女性部フレッシュミズ部会がプロデュースした農作業着ファッションショーを行うなど会場は大変盛り上がりしました。



相談ブースやメーカーの展示が並ぶ会場は多くの人で賑わいました

いわみ
中央

青年連盟 出前授業で地域と交流

いわみ中央青年連盟(柿木悟委員長)は7月19日、公民館活動の一環として浜田市社会福祉協議会の生活支援コーディネーターからの依頼を受け、この度、初めてこんにやく作りの出前授業を行いました。当日は20名の参加者を4班に分け、こんにやく芋をサイコロ状にカットするところから作業を始めました。作業中は和気あいあいとおしゃべりしながらでしたが、最終工程の茹でる段階になると、他の班の出来具合が気になるのか、集中し徐々に無言になりました。自分達で作ったものは臭みもなく、格別においしいこんにやくが出来上がりました!参加された皆さんは大満足でした。青年連盟は今後も交流活動や、食農教育活動を積極的に行っていきます。



JA
自己改革
実践中

JAグループ島根

JAしまね農業振興支援事業 活用事例のご紹介



JAしまねでは、経営拡大に向けた基盤整備や機械等の更新対策、県域でのモデル事業を実施するために、「JAしまね農業振興支援事業」に取り組んでいます。

古谷光教さん（44歳）は、隠岐郡知夫村で繁殖牛を飼育しています。知夫村での飼育は、その環境を活かした放牧が主となりますが、一方で放牧であるが故の事故や牛の行方不明などが起こりやすい状況があります。古谷さんは牛たちが事故にあわないよう、毎日の観察や見回りを徹底するなど、細やかな気配りを欠かしません。

JAしまね農業振興支援事業は平成29年11月に新規就農の際、就農にあたって必要となる牛舎の整備や畜産専用機械の導入、また牛の価格高騰が続いていることから所得の安定を図るため繁殖母体となる雌牛の早期確保に活用しました。

新規就農者や後継者不足など隠岐地域の大きな課題に向け、JAには新規就農者や家畜農家への継続的な支援を期待しています。

古谷さんからは「年間出荷頭数30頭が目標。知夫村全体の出荷頭数の増加に貢献したい」と意欲をお話いただきました。

隠岐郡知夫村 古谷 光教さん



一所懸命 青年連盟

JAしまね島根おおち青年連盟

JAしまね島根おおち青年連盟は、島根県のほぼ中心にある邑南町、川本町、美郷町、江津市桜江町の盟友146名で構成されています。活動については、食農教育活動に力をいれており、管内の保育所、園に野菜苗を配布し、その収穫した野菜と盟友が作った野菜を使って「愛菜カレーの日」というイベントを開催しています。管内すべての保育所、園（16ヶ所）で、園児と一緒に野菜を切ったり、皮をむいたりしてカレーを作り、食べて交流しました。また、盟友が食に関する紙芝居を読んで園児達も熱心に聞いていました。今後もJAしまね島根おおち青年連盟は、未来を担う子供たちと一緒に、食農教育活動を続けていきたいと思ひます。



令和元年度 くにびき地区本部 総代説明会開催

くにびき地区本部総代説明会を6月22日、
営農総合センターで開催しました。平成
30年度の事業報告のほか、令和元年度の
事業計画、基本方針など主な内容につい
て報告します。



総会の様子

当日は総代140名のうち、113名が
出席。

冒頭で、出席者全員によるJA綱領の唱
和の後、山根盛治副組合長が「平成30年
度も食と農を基軸とし、地域に根ざした協
同組合として、農業者の所得の増大、農業
生産の拡大、地域の活性化に向け、自己改
革に取り組みました。5月31日に政府の農
協改革推進期間が終了し、JAの自己改革
における農家所得の向上への取り組みに一
定の評価を得ることができました。このよ
うな状況のなか、令和元年度から3ヶ年の
第2次中期経営計画・農業戦略実践3ヶ
年営農計画を作成。組合員の皆様のご意見
をいただきながら、組合員目線の自己改革
を念頭に、着実な実践を行っていきます」と
挨拶しました。

続いて、栗原令本部長が「平成30年度は

皆様のおかげで事業利益、当期剰余金とも
に計画を上回る事ができましたが、マイ
ナス金利政策により地方銀行などの金融情
勢は厳しい状況にあります。そういった状
況を踏まえ、当地区本部では、農業振興と
同時に経営の基盤をバランスをとりながら
安定させ、サービスの維持、向上を目指し
ます」と日頃の感謝とともに、今後の意気
込みを語りました。

その後、座長に浅野真治総代長（松江
南）を選出。JAしまねとくにびき地区本
部の平成30年度の事業報告、新年度の事業
計画などについて説明し、総代から意見、
要望が出されました。（別18ページ参照）

こうした意見や要望を踏まえ、くにびき
地区本部が組合員の皆様から信頼され満足
されるよう、今後も役員一同協力して事
業運営にあたって参ります。

くにびき地区本部の概況

平成30年度事業実績（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）

（単位：千円）

科 目	金 額	科 目	金 額
事業総利益	3,861,328	事業利益	199,597
信用事業総利益	1,509,368	事業外利益	203,671
共済事業総利益	1,199,983	事業外費用	57,526
購買事業総利益	455,526	経常利益	345,741
販売事業総利益	120,797	特別利益	17,084
保管事業総利益	16,488	特別損失	19,234
加工事業総利益	11,849	税引前当期利益	343,591
利用事業総利益	112,444	法人税・住民税等	7,793
葬祭事業総利益	267,166	当期剰余金	335,797
宅地等供給事業総利益	10,023		
その他事業総利益	174,437		
指導事業収支差額	▲16,758		
事業管理費	3,661,730		

※本店配賦を含む。

くにびき地区本部 組合員数（平成31年3月31日現在）

（単位：人、団体、戸）

正組合員			准組合員			合 計	戸 数		
個 人	法人・団体	合 計	個 人	法人・団体	合 計		正組合員	准組合員	合 計
10,075	29	10,104	29,206	129	29,335	7,826	21,760	29,586	

くにびき地区本部 役職員の状況（平成31年3月31日現在）

（単位：人）

役 員			合 計	職 員				合 計
常勤理事	非常勤理事			総合職	専門職	一般職	福祉職 (うち営農指導員)	
3	4	7	245	28	28	29	(17)	330



山根副組合長



栗原本部長



浅野座長

平成30年度 事業報告

平成30年4月1日
～平成31年3月31日



青年連盟と育英北幼稚園による田植え（6月6日）



松江大根島牡丹PR（1月15日 首相官邸）

営農指導・販売

円（前年比95.8%）となりました。生乳販売は乳量657tで79,702千円（前年比83.4%）。鶏卵の販売高は37,510千円（前年比99.3%）となりました。

保管

- 米の集荷・検査買入一下佐陀倉庫1,678t、ライスターミナル「米蔵」1,296tの実績となりました。

加工

- 雲州人参一生産者の廃作により生産量が減少し、出荷量約147kg（前年比84.0%）、取扱高は4,663千円となりました。
- 茶—一番茶は減少したものの、秋番茶は増加し、総計で28.8t（前年比102%）、取扱高は10,598千円となりました。

利用

- 育苗—水稻苗は飼料用米苗を含め、98,673箱（前年比95.7%）。野菜・葉たばこ苗では16,616トレーとなりました。
- 米穀乾燥調整施設—カントリーエレベーター「稲蔵」1,320t、鹿島ライスセンター209t、南ライスセンター396tの処理実績となりました。
- 無人ヘリ防除—防除面積は、水稻で341.8ha（前年比94.9%）の散布を実施しました。

購買

- 生産資材—生産資材低減対策の一環として、令和元年産水稻資材予約価格について、肥料・農薬を統一品目として安価に設定をし、統合メリットの創出に取り組みました。また、集落営農組織・認定農業者等の担い手を対象に、提案型訪問活動を実施し、大型規格や低コスト農薬などニーズに即した資材提供に努めました。
- 農業機械—農家訪問活動の強化、サービスの向上と担当者のレベルアップに努めました。また、低コストにつながる「共同購入トラクター」の提案を行いました。

地産地消で食卓に
安心をお届けします！

産直会員数 1,270人
産直販売高 6億58百万円

- 水稲—7月からの猛暑の影響と9月の降雨による刈り遅れにより、1等米比率は、全品種平均で39.8%（前年42.8%）と前年より低い結果でしたが、「つや姫」については、高温登熟性に優れていることから、1等米比率が77.4%（前年75.6%）となりました。（ア）米集荷は、出荷申出数量112,572袋に対し、110,058袋（97.7%）の集荷実績となりました。

（イ）平成30年産では、買取手法を変更し、価格は前年より1袋（30kg）当たり150～100円高い価格になりました。

- 野菜—「くにびきキャベツ」の栽培技術・基礎知識を習得できる講座を開講し、4名の受講者が新たな担い手となりました。また、「かぼちゃ、馬鈴薯」を重要推進品目と位置づけ、作付け拡大に取り組みました。（生産者19名・栽培面積2.5ha）

- 西条柿—着果数は平均並みでしたが、梅雨明けの後の猛暑と干ばつにより、小玉傾向となり、秋期の長雨と日照不足により、樹上軟化が各地で発生したことで収穫量が減少し、「こづち」は、25.3t（前年比51.4%）の出荷となりました。また、「㊦干し柿」は岡山市場、「あんぼ柿」は広島市場を中心に出荷しました。

- 椎茸—販売高は3,851千円（前年比89.6%）となりました。

- 牡丹—（ア）鉢花：出荷量は5,688鉢（前年比98.7%）と前年を下回る実績となりました。（イ）鉢・苗直接輸出先の台湾の販売業者生産拠点では、出荷に併せ管理指導を実施しました。

- そば—播種時期の少雨と9月の天候不良により、収量は42t（前年比80.7%）となりました。

- 畜産—子牛価格は依然として高値で推移しましたが、子牛出荷頭数は160頭（前年比97.0%）、販売高は115,271千



30年産米初検査
（8月24日 下佐陀倉庫）

主な農産物販売高

米	617百万円
野菜	999百万円
果樹	76百万円
畜産物	268百万円

- J Aしまね農業振興支援事業により、担い手経営体として29経営体を中心に支援しました。合計で助成額20,262千円（事業費65,102千円）の支援を行いました。また、雪害支援復興対策としてパイプハウス22棟の再整備に3,853千円を支援しました。

- 「経営安定対策」の円滑な事業実施に向け、申請手続きの支援等に積極的に取り組みました。◇水田活用の直接支払交付金交付件数528件◇畑作物の直接支払交付金交付件数42件。

- 「良質米生産に向けた品種転換」に向けて、「コシヒカリ」から「きぬむすめ」「つや姫」への品種誘導を実施し、出荷実績で「きぬむすめ」は984tから1,267t、「つや姫」は676tから763tと前年より増加しました。

- 農業経営支援として、農業所得収支データ451件、農業簿記データ還元16件のデータ提供を実施しました。

- 新規産直会員育成を目的とした「さんちよく営農塾」を開講し、18名が受講しました。

- 産直は、イベント開催やホームページのリニューアルで販売高の増加に取り組みましたが、上期の気象条件による出荷量の減少と下期の野菜価格低下の影響により、販売高658,928千円（前年比93.0%）となりました。



サンサン女子大当農体験講座
(7月21日 中海干拓地)



子育て応援イベント
(6月23日 くにびき地区本部花壇)



自転車交通安全教室
(5月29日 松江市立第三中学校)

組織・広報・くらしの活動

- 農政会議一関係団体と連携した行政との懇談会を開催し、農業施策等の要望・意見交換を行いました。
- 青年連盟一育英北幼稚園との食農教育・農業体験や地域住民との「ふれあい親子いもほり大会」を開催するとともに、松江市農林水産祭やまつえ食まつりへの参加により、農業理解促進に取り組みました。
- 女性部一教育文化センターSan・san館を活用して「食」と「農」をテーマとした活動を進めました。また、広報誌での「松江に伝わるふるさと料理」の紹介や毎月開催している「サンサン料理教室」へレシピの提案と講師を務めました。
- 女性大学一9月に第5期生41名が卒業し、10月に6期生52名が入学しました。営農・文化・教養等幅広い講座を実施し、相互交流とJA理解を深めました。
- 広報一広報誌「JAしまねびより」やホームページ等により広報活動を展開しました。
- 教育文化活動一協同組合の理解促進を深めるため、「家の光三誌（家の光・ちゃぐりん・地上）」「日本農業新聞」など教育資材の普及拡大に取り組みました。組合員・地域住民との絆づくりの一環として「支店だより」を全支店が発行し、より身近な情報発信に取り組みました。
- くらしの活動一◆ふれあい活動を進めるとともに、支店運営委員会を中心に地域交流とふれあいの場の創出に取り組みました。◆キッズサッカー大会、家庭婦人バレーボール大会を主催し、スポーツ活動支援を行いました。◆パートナーセンター（結婚相談所）による婚活支援を行い、4組が成婚しました。◆地域貢献・地域活性化に取り組むグループ・団体等の多様な取り組みを表彰（2団体）および普及支援（5団体）しました。
- 健康管理活動一◆「特定健診」や「腹部超音波検査」「大腸がん検診」「胸部CT検診」「乳がん検診」を実施。◆農業法人会会員を中心に、担い手人間ドッグに取り組みました。◆「第6回JAしまねくにびきだんだん健康ウォーク大会」を開催し、108名の参加。◆「地域ケア連携フォーラム」等への参画を通じて、地域セーフティネットの構築を図りました。

信用

- 個人貯金獲得の取り組みとして、各種貯金キャンペーンを精力的に実施しました。
- 貯金残高1,314億12百万円（計画対比101.5%）。平均残高1380億68百万円。
- 農業資金の取り組みとして、TACとの連携強化を図り資金提供に努めました。新規貸出実績204,625千円。
- 個人貸出金については、「魅力ある金利」を提案可能とした「子育て応援宣言」を引き続き実施しました。また、JAしまね統一開催の休日ローン相談会を実施（年4回）しました。
- 貸出金残高493億99百万円（計画対比101.3%）。平均残高481億83百万円。
- 年金新規指定口座獲得のため、受給権が発生する方への訪問や他行での受給者に対する年金指定替え訪問を実施しました。年金受給者数14,351名。
- 子育て世帯に、農業体験や収穫した農産物を使用した食事会、食農体験ツアー等実施しました。

共済

長期共済金の主な支払状況

内容	金額	件数
死亡共済金	64,143万円	163件
入通院共済金	40,770万円	3,220件
火災・自然災害共済金	30,775万円	646件

傷害共済は679件で3,784万円の支払いがありました。

- 「3Q訪問活動（あんしんチェック）」を実施し、組合員世帯の約60.4%にあたる13,137世帯のフォロー訪問活動を行いました。
- 長期共済期末保有高は5,889億2千万円（前年比98.1%）。
- 自動車共済の新規獲得および保障内容充実に向け、スマイルサポーター・ライフアドバイザー・安心サポーターの連携強化による取り組みを実施。最高水準保障のクルママスター占有率は25.7%、契約件数は83件増加し、21,608件（前年比100.3%）となりました。
- 魅力あるJA共済の普及に取り組み、長期共済推進実績ポイント8,702,598Pを達成し、普及拡大に努めました。
- 交通安全反射たすき・カーブミラー贈呈、交通安全教室の開催、JAカップ学童野球協賛など地域貢献活動を行いました。

福祉

- 組合員、利用者から喜ばれ、安心して生活できる福祉サービスに取り組みました。

福祉サービス利用実績／年間

事業所（事業名）	延利用者数
介護相談センター（居宅介護支援）	1,192人
ヘルパーステーション（訪問介護）	7,970人
サン・エールたまゆ（通所介護）	8,327人
サン・エールたまゆ（短期入所生活介護）	6,708人

葬祭

- 葬儀施行件数は、624件（内会館利用は442件）。また、葬祭会員専用定期積金「あおぞら」の普及運動を展開し、3,226人の会員数となりました。

生活

区分	H30実績	備考
自動車	300,393千円	車両販売272,365千円、整備部品28,028千円
LPガス	281,839千円	供給264,943千円、ガス器具16,896千円
生活資材	85,588千円	シロアリ工事47,689千円、テレフォンショップ28,909千円、ムスイ他8,990千円

資産管理

- 資産相談センターにおいて、相続を中心とした相談業務に取り組み、194件の相談に対応しました。

経営・管理

- 第1次中期経営計画実践3年目にあたり、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」の確立に向け、くにびき地区本部における重点実施事項についての進捗管理に取り組みました。
- 「JAしまね総合ポイントカード（おさいふカード）」については、窓口・店頭等において積極的な加入促進に努め、加入率97.5%となりました。
- 「組合員加入促進運動」を展開し、資格変更を含め正組合員154名、准組合員661名が加入しました。
- コンプライアンス・プログラムに基づく行動計画を策定し、年間を通じてその具体的実践を行い、コンプライアンス遵守・不祥事未然防止の強化に取り組みました。

基本方針

地域農業生産基盤の維持に向け、担い手の育成支援と農業振興をすすめるとともに、組合員・利用者等地域の声を踏まえ、「農業者の所得増大」「農業生産者の拡大」「地域の活性化」を目指すJA自己改革に役職員一丸となって取り組みます。今年度は、「第2次中期経営計画（令和元年度～令和3年度）」と「第2次農業戦略実践3ヶ年営農計画（令和元年度～令和3年度）」の初年度にあたり、地区本部重点実施事項を主体に各事業総力を挙げて取り組み、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」の確立を目指します。

令和元年度 事業計画

平成31年4月1日
～令和2年3月31日

組合員とともに農業・地域の未来を拓く

JAしまねのめざす姿

1. 消費者の信頼に応え、安全で安心な国産農畜産物を持続的・安定的に供給できる地域農業を支え、農業者の所得増大を支える姿。
2. 総合事業を通じて地域の生活インフラ機能の一翼を担い、協同の力で豊かでくらしやすい地域社会の実現に貢献している姿。
3. 次世代とともに「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、存立している姿。

持続可能な農業の実現

豊かでくらしやすい 地域社会の実現

協同組合としての 役割発揮

食と農を基軸として地域に根ざした協同組合としての総合力発揮

3つの危機

1. 農業・農村の危機

2. 組織・事業・経営の危機

3. 協同組合の危機

創造的自己改革

「農業者の所得増大」
「農業生産の拡大」へのさらなる挑戦

「地域の活性化」への貢献

組合員の積極的な
事業・活動への参加

「食」「農」「協同組合」にかかる県民理解の醸成

持続可能な経営基盤の確立・強化

主な重点実施事項

<営農・農業振興>

- ①地域農業を支える多様な担い手の育成と支援
ア. 行政とJA担い手サポートセンターの連携による、新規就農希望者に向けた就農支援強化
イ. 集落営農組織の新規設立及び法人化に向けた、担い手サポートセンターと行政の連携による支援
- ②良質米生産の推進と結びつきを強化する販売対策
ア. 農業所得向上に向けた、品質向上対策の実施による良質米生産
イ. 卸売業者や実需者から要望の強い「きぬむすめ」「つや姫」への品種誘導の積極的な推進と集荷販売対策の強化

- ③水田フル活用による農家所得向上と多様なニーズに対応した生産体制の強化
- ④園芸産地の育成・拡大と販売対策
ア. JAしまね「重点5品目（キャベツ・たまねぎ・白ねぎ・ミニトマト・アスパラガス）」産地育成・拡大に向けた取り組み
イ. 「キャベツ」「西条柿」の生産性・品質の向上と集出荷の省力化・契約取引拡大
- ⑤優良雌牛保留対策等の継続的な事業活用による更新・増頭対策
- ⑥産直振興による地産地消の推進
- ⑦農業所得向上を目指した営農指導体制の強化
- ⑧生産コストの低減
- ⑨農畜産物の安全・安心への取り組み

<地区本部運営>

- ①組織基盤強化
- ②経営基盤強化
- ③協同組合としての意識改革と人材育成

総代説明会 Q & A



小豆沢幸男総代

伊原幸俊総代

永江りえ総代

(1) (六道玉湯) 伊原幸俊総代
くにびき地区本部の農業振興あるいは経営においては、最も課題としていることは何か。また、その課題に対して、この一年間どのように取り組んでいく考えているか伺いたい。

(2) 地区本部
平成31年3月1日より、ふれあい店については、午前10時から午後3時までと営業時間を短縮し、人員も1名体制となりました。限られたヒト・カネのなかで、いかに有効に資源を活用し、効率的に事業運営を行っていくか検討した結果、このような決断をさせていただきました。今後は渉外体制や様々なサービスの充実を図り、地域の皆様にはご不便をかけないよう努力していきたいと考えています。
(2) 女性総代の意見交換会について
は、今年度も前向きに検討したいと考えています。

(1) (六道玉湯) 永江りえ総代
平成31年3月の機構改革により、ふれあい店の営業時間が短縮となり、地域の利用者から不便を感じているという意見を聞いています。第2次中期経営計画書には組合員・利用者接点の再構築と記載されている。今後、ふれあい店について、どのように組合員・利用者との接点を構築していく考えてあるか伺いたい。
(2) 地区本部
昨年度、女性総代のみを対象とした会が開催され、各地区本部の女性総代と意見交換を行うことで大変勉強になった。今年度も引き続き開催いただきたい。

(2) 地区本部
現在、JAと組合員あるいは地域の皆様との距離が遠くなっていると感じています。そういったなかで、総代の皆様には「わがJA」意識を持ち、積極的な事業利用と協同

活動への参加を通じ、様々な意見をお寄せいただき、JAが良い方向に向かうようにご協力をお願いします。そのためにも可能な限り意見交換ができる場を設けるなど対応していきます。地区本部運営委員会では地区本部の運営に関する協議を行っていますので、総代の皆様にはJA全体の運営についての審議等をお願いします。

(1) 地区本部
農業振興については、米の生産調整が昨年から見直されたことにより、これからは売れるコメづくりとして、品種転換、業務用米の生産、そして水田フル活用による新規需要米等への取組みが必要であると考えています。また、地産地消を含め産直をいかに伸ばしていくか、高齢化が進む中でいかに作物を集めて歩く大きな課題です。
そして、農業振興を支えていくため、信用・共済事業の更なる取り組みが必要です。そのなかで、今後、一律の店舗ではなく、それぞれ地域のニーズに合い、皆様に利用いただけるような店舗体制を検討していくとともに一定の効率化を図っていきたく考えています。平成27年に統合したものの、まだまだ統合メリットが十分に発揮出来ていないと感じています。本店と地区本部間または各地区本部間で重複された業務があり、さらなる効率化が可能であると思われまします。こういっただ部分で突き進めていき、経営の健全化を図っていかなければならぬと考えています。

地区本部
事業収益については、購買事業でいえば、収益は購買品を買っていただいた金額であり、それに対して、仕入原価、運送費など収益に直接関わる費用が事業費用となります。信用証券の利息、収益は貸付金・奨励金の利息、また農林中金の奨励金であり、それに対して収益を得るために直接かかる費用が事業費用となります。通常総代会資料にJAしまね全体の部門別損益を示していますが、地区本部については、人件費をはじめとした事業管理費の正確な数値の算出が困難であり、皆様への誤解も懸念されることから、部門別損益を資料では示していません。ご理解をお願いします。

(六道玉湯) 小豆沢幸男総代
地区本部総代説明会資料のなかで、それぞれの事業に事業費用とあるが、具体的にどのような内容のものであるか説明いただきたい。
また、事業利益については、全事業まとめて示されている。先ほどの説明にもあるとおり、信用事業の利益率が低下しているなかで、営農・経済事業の黒字化または赤字縮小を検討していくため、またその経過を把握するためにも事業別に事業利益を示していただきたい。

活動への参加を通じ、様々な意見をお寄せいただき、JAが良い方向に向かうようにご協力をお願いします。そのためにも可能な限り意見交換ができる場を設けるなど対応していきます。地区本部運営委員会では地区本部の運営に関する協議を行っていますので、総代の皆様にはJA全体の運営についての審議等をお願いします。

選出地区名等	氏名			備考
松江東ブロック	足立 忠	原 慶治	松本 広明	川津 朝韵
松江北ブロック	清水 秋廣	石倉 正治	野津 和史	松尾 衛
松江南ブロック	若林 大徳	宅和 広己	田久和武志	松浦 久義
鹿島島根ブロック	桑谷 充男	新宮 文雄	朝倉弘太郎	横原 篤
八束美保間ブロック	渡部 文明	安部 敏樹	大西 正富	美保間 八束

地区本部運営委員(31名)

選出地区名等	氏名			備考
東出雲八雲ブロック	森廣 紀元	岸本 定期	山根 盈樹	東出雲 八雲
女性枠	森口 順子	福間 泰正	小山中都里	橋北 橋南
常務理事	栗原 令	菅井 一	田中 鈴夫	多和田 宏
執行役員	奥原 展芳	菅井 一	田中 鈴夫	多和田 宏

地区本部役員(5名)

○は新任

本店役員(当地区本部出身)(1名)

(敬称略)

くにびき地区本部 運営委員会

くにびき地区本部運営委員会は、JAの組織及び事業運営に関して、組合員の皆様のご意見・ご要望を地区本部並びにJA全体の方針に反映することを目的に設置しています。この程、新たな運営委員会(委員長・田中鈴夫理事、副委員長・多久和宏理事)体制となりましたので、紹介させていただきます。

任期3年間

くにびき地区本部の新執行体制決まる！ 栗原本部長が再任

運営体制改革にかかる定款変更後（役員定数の削減等）、任期満了に伴う役員改選の承認を受け、次の通りくにびき地区本部の新しい役員体制が決定しました。

大変厳しい経営環境の中ではありますが、組合員・利用者の皆様に選ばれ、ご利用いただけるJAに向け取り組んで参りますので、変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

理事

菅井 一
（新任・竹矢町）



田中 鈴夫
（再任・大草町）



多久和 宏
（再任・大野町）



執行役員副本部長

奥原 展芳
（地区本部統括補佐（営農経済））
（新任・大垣町）



就任の挨拶

常務理事本部長



栗原 令
（再任・矢田町）

【地区本部統括（総務、企画管理、信用共済）】

このたびの役員改選により、くにびき地区本部の本部長に再任され、引き続き向こう三年間務めさせていただきますことになりました。

令和の初年度、JAしまね誕生から五年目にあたり、心新たに全力を尽くして参りますので、宜しくお願いたします。

取り巻く情勢は、農業就業者の減少や高齢化、担い手不足が進むなかで、平成三十年産米からの「生産調整の見直し」、昨年十二月の「TPP11」の発効、今年二月の「日・EU経済連携協定」の発効など厳しさを増しております。

今後、役員一丸となりまして、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」の確立と「自」改革の実現に向け、「農業者の所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に取り組み、更には、持続可能な健全経営を目指し、事業の再編、選択と集中など「経営の効率化」に取り組んで参ります。

組合員・利用者の皆様には、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「持続可能な農業の実現」「豊かで暮らしやすい地域社会の実現」「協同組合の機能発揮」を目指し、期待と信頼に応えるJAへ

JAの運営では、政府から求められた五カ年の「農協改革集中推進期間」は今年五月に終了しましたが、引き続きの取り組みを促されています。

また、屋台骨の信用事業は、高齢化や日銀の超低金利政策を受けた収益の減少により、現状の事業体制のままでは収支の悪化が予想され、経営の健全性確保に向けた取り組みが求められています。

こうしたなかで、くにびき地区本部では、新規就農者の育成確保、集落営農組織の設立・法人化、需要に応じた米の品種転換、水稲資材の銘柄集約による価格低減、信用・共済事業でのサービスの徹底、くらしの活動、農業振興支援事業、業績還元などに取り組み、また、経営改革として「信用・共済事業体制及び支店機能・ふれあい店の見直し」を実施いたしました。

退任役員

任期満了により、地区本部役員である川上悟司副本部長、石橋敦夫理事、池田至郎理事、周藤光理事および地区本部出身の恩田芳和監事の5名が退任されました。



恩田 芳和
監事
（八雲町）



周藤 光
理事
（東出雲町）



池田 至郎
理事
（八束町）



石橋 敦夫
理事
（西持田町）



川上 悟司
副本部長
（鹿島町）

取り組んでいます。～くにびき地区本部の取り組み～

沖縄で販売促進 島根県産「つや姫」大人気!

J Aしまねと米卸業者などが、島根県産「つや姫」の認知度向上と販路拡大を目的に、7月20、21日の両日、イオン琉球の那覇店と南風原店で、試食販売を行いました。

稲の生産量が少ない沖縄県本島では、沖縄県内の卸売業者が全国各地の米を販売しています。

J Aしまねでは、これまでに18回、イオン琉球で試食販売を実施。その甲斐あって、県内産「つや姫」に対する支持を得て、固定客が増加し、人気商品となりました。

今回、当地区本部からは、生産者を代表してくにびき稲作協議会の三島正会長をはじめ、米穀畜産課の職員が参加し、対面販売でアピール。購入者全員にはつや姫1合パックを贈呈し、さらに精米5^キ購入者へは、「玄丹そば」が当たるくじを実施しました。2日間、1、168袋(5^キ)を販売しました。

同行した米穀畜産課の佐川真二課長補佐は「2日間で1,000袋を超える販売ができたことや『つや姫』に対する消費者の声を聞くことで、沖縄での人気、知名度を実感することができた」と話しました。11月にも沖縄で販売促進を行う予定です。



つや姫をPRする三島会長

米の品質向上に向け、 圃場巡回を実施!

～生育状況や栽培管理について学ぶ～



今後の栽培管理について説明する加納専門普及員(左)

くにびき地区本部米品質向上対策委員会は7月5日、生育状況の確認と栽培技術向上に向けた指導を行うため、管内9箇所にあるモデル圃場を設置者と共に巡回しました。

同委員会は、くにびき稲作協議会、島根県東部農林振興センター松江農業普及部、J Aで構成。米品質の向上に向けモデル圃場の設置や巡回、現地指導会の開催、情報紙やメール配信による栽培に関する情報提供を実施しています。

当日は、同委員会やモデル圃場設置者など17名が参加。各圃場を見ながら、松江農業普及部の加納正浩専門普及員から、生育状況を解説してもらい、今後の栽培管理について指導を受けました。

加納専門普及員は「どのモデル圃場も、管理が行き届いており、生育状況は順調。今後は適期に作業を行い、栽培管理を徹底することで良い米を収穫していただきたい」と呼び掛けました。

参加した、モデル圃場の設置者でくにびき稲作協議会長の三島正さん(宍道町)は「各圃場を巡回し、比較することができたので参考になった。これからの栽培管理についても、指導のとおりしっかり行い、良質米を生産したい」と意気込みました。

組んでいます。～くにびき地区本部支店運営委員会の取り組み～

宍道支店でビアガーデン開催! 花火が夏の夜空を彩る



宍道支店運営委員会(伊原幸俊委員長)とまつえ南商工会青年部宍道支部は7月27日、恒例のビアガーデンを同支店の駐車場で開き、多くの地域住民でにぎわいました。

ビアガーデンは、宍道町内にある氷川神社の「祇園祭(れんげさん)」に合わせて、毎年開催。当日は、支店運営委員やJ A職員が売り子となつて、生ビールやかき氷をはじめ、島根和牛の串焼き、町内産のスイカや枝豆、そばなどを販売しました。会場を訪れた人たちは、思い思いに暑い夏を楽しみながら、夜空に浮かぶ花火を眺めました。

永江久夫副委員長は「れんげさんは宍道町の夏の一大イベント。ビアガーデンや観覧場所の提供を通じて、今後も盛り上げていきたい」と熱い思いを語りました。

来場者は「町内産のスイカや枝豆など、おいしいものを食べながら、きれいな花火を見ることができてよかったです」と満足そうに話しました。



思い思いにビアガーデンを楽しむ来場者

農業者の所得増大・農業生産の拡大に向けて

みんなで創るしまねの農業!

くびきメッセで大規模イベント開催!



品定めする来場者



最新の農機具を提案

JAしまねとJA全農は7月13、14日の両日、島根の農業者が抱えるさまざまな問題解決に向けて「アグリミートイテング」と「農機総合展示会」をくびきメッセで開催し、2,633名の生産者や市民らで賑わいました。

当日は、スマート農業体験、最新農機具展示などのブースや税務、法人化などの各種相談コーナーも設置し、農業者が抱える問題解決に向け、さまざまな提案を行いました。

また、メインステージでは、JAしまね女性

部フレミズプロデュースの「農作業着ファッションショー」を開催。農作業を着用したモデルが、機能性の高さやかわいらしいデザインなどを来場者に向けPRし、会場を盛り上げました。

同時開催の「ぎゅーっと島根大産直市」には各地区本部から旬の農産物が勢ぞろい。当地区本部からは、トマトやキュウリなどの野菜やアムスメロンなどの果実、加工品などを販売しました。

来場者は「1会場に様々なブースがあり、いろいろ知ることができたのでよかった」と話しました。



農作業着をPRするモデル



圃場を視察する参加者



圃場を視察する参加者

生産技術の向上を目指す! くびき視察研修会を開催

くびき農業法人会（岸本定朝会長・18組織）は7月8、9日の両日、広島県内の農業関連施設などを見学する視察研修会を実施し、24名が参加しました。

視察研修は、経営の多角化に向け、高収益作物について学び、農業関連施設を見学することで生産技術の向上や良質な農作物の生産に繋げることを目的に開催したもの。

初日は、東広島市にある広島県農業技術センターを訪問し、ハウス栽培のトマトやアスパラガスの圃場を視察。省力化や品質、収量の向上などを目指し、最先端の技術について学びました。次に、食品全般に関わる加工機械および食品の製造販売を行っている株式会社サタケを訪問。最新の選別機で行われる実験などを見学しました。

参加した農業法人明るい農村の入江宏明さん（36）は「人手不足の状況ではあるが、技術の進歩を目的に、今後の農業に期待が持てる内容だった」と話しました。

地域活性化に向けた地域貢献活動に取り

「食」を通じた絆を育む! 夏休み親子料理教室開催

東出雲支店運営委員会（岸本定朝委員長）は7月27日、教育文化センターI・San・san館で、「夏休み親子料理教室」を開催しました。

食育体験を通じて親子のコミュニケーションと食への興味を深めてもらおうと企画し、今年で4回目となります。

当日は、東出雲町在住の小学生とその保護者10組のほか、支店運営委員、JA職員、講師を務めるくびき女性部東出雲支部の部員など31名が参加しました。

冒頭、岸本委員長が「夏休みの良い思い出になるように楽しく料理をしてほしい。地元産の野菜をたくさん食べて、暑い夏を乗り切りましょう」と挨拶。続いて、講師が作り方を説明し、調理を開始しました。「アトナおにぎり」「トマトとピーマンの肉



夏休み親子料理教室

「カボチャの冷製ポタージュ」「ブルーベリーヨーグルトゼリー」の地元産食材をふんだんに使った5品を親子で協力しながら完成させた後、試食を楽しみました。

参加した川上結菜さん（8）は「どれもおいしく作ることができた。これからは料理のお手伝いをしたい」と笑顔で話していました。



調理を楽しむ参加者



完成した5品

地域活性化に向けた地域貢献活動に取り組んでいます。

～くにびき地区本部の取り組み～



くにびき地区本部情報

JAカップ松江・隠岐地区予選大会が開催 城西レッドスターズが2年連続 4度目の栄冠に輝く



JAカップ第36回島根県学童軟式野球選手権大会松江・隠岐地区予選大会が7月13日から15日の3日間、鹿島町の深田運動公園野球場他3球場で開催され、23チームが競い、城西レッドスターズが優勝しました。

同大会は地域スポーツの振興を目的に、県軟式野球連盟などが主催し、JASHまね、JAC共済連島根が特別協賛しています。試合は3日間にわたるトーナメント戦で、白熱した戦いが繰り広げられました。

決勝は、序盤に3点を先制した城西レッドスターズが全揮屋ジュニアスポーツ少年団の追

い上げを振り切り、312で試合を制し、2年連続4度目の栄冠に輝きました。

試合後、城西レッドスターズの宮本光遥主将(11)は「2連覇できて嬉しい。23チームの代表として、県大会でも優勝を目指してがんばりたい」と話しました。

県大会は8月17日と18日の2日間、松江市営野球場で開催されます。



優勝旗を受け取る城西レッドスターズ



準優勝チームを表彰する奥原副本部長(左)

お米作りの出前授業 くにびき青年連盟が園児と交流



くにびき青年連盟(野津喜洋委員長・108名)は7月9日、育英北幼稚園でつき組(年長5歳児クラス)の園児27名とその保護者にお米作りについて出前授業を行いました。

園児とは、6月4日に田植えを行っており、お米ができるまでをもっと詳しく知ってもらおうと実施した

当日は、野津委員長他2名の盟友が先生となり、授業を開始しました。お米ができるまでの過程や食事の大切さなどを、スクリーンに映し出された画像を見ながら説明。また、盟友が持参した田車や米俵、30kgの米袋に触れたり、一緒に植えた苗の生育状況を見たりするなど、園児たちと楽しく交流しました。

最後には、食農教育をすすめる子ども雑誌「ちやぐりん」8月号をプレゼントし、お米の授業を締めくくりました。

授業を受けた小西健介くん(5)は「田車など初めて触るものばかりで楽しかった。おいしいお米ができたらしいな」と笑顔で話しました。

10月には、稲刈りを体験する予定です。



田車の使い方を学ぶ園児



ちやぐりんを贈呈する野津委員長

フードバンクしまね「あったか元氣便」 子どもの健やかな成長を食品で支援



フードバンクしまね「あったか元氣便」(代表・竹谷強志 志原公民館長)は7月22日、いきいきプラザ島根で米やお菓子などの詰め合わせ作業を行い、食品の支援を必要としている家庭に向け配送しました。

フードバンクしまねは、くにびき地区本部や生協しまね、グリーンコープ、松江保健生協、島根県労協、地域つながりセンターなどで構成。

子どもたちが安心して健やかに成長していくことができるまちづくりを目指し「あったか元氣便」として古志原小学校、松江市立第四中学校に在籍する家庭を対象に、給食のない夏休み期間中に食品を届けています。

当地区本部でも米や寄付金を募り、米約440kg、寄付金5万5千円余が集まり提供しました。

当日は、関係者など約70名が参加。冒頭、竹谷代表が「多くの方に協力していただいたおかげで、食品が揃い感謝している。今後ともこの取り組みを続けることで、子どもたちを笑顔にしていきたい」と挨拶。その後、申請のあった86世帯へ家族構成に応じて区分し、手際よく米やレトルト食品、缶詰、乾麺、お菓子などを箱に詰め、最後に手紙も同封しました。

参加した古志原小学校の富谷衡校長は「支援の輪を松江市内に広げていけるよう、今後も協力していきたい」と話しました。

8月19日には二回目の配送を行う予定です。



箱詰め作業を行う田中鈴夫理事(中央)と田中達也企画総務部次長(右)

組合員のアクティブメンバーシップ確立に向けて取り組んでいます。

～くにびき地区本部の取り組み～



年金友の会が親睦深める！ ホテル玉泉で落語と 会席料理を堪能

くにびき年金友の会（三島武会長・17、651名）は7月9、10日の両日、「落語特別公演くにびき寄席と湯つたり会席料理inホテル玉泉」を実施し、合計236名が参加しました。

この企画はJAでの年金受給者、受給予約者を対象に、親睦を深める目的で、毎年実施しています。

当日は、落語家の笑福亭由瓶さんと上方落語界史上初の三冠受賞を成し遂げた林家花丸さんが公演。扇子や手ぬぐいを上手に使い、様子や物を表現し、一人何役もこなすなど、プロの腕前を披露。また、軽妙な語り口で会場は笑いの渦になり、中には涙を流しながら笑う参加者もいました。



その後、「和牛ステーキ」や「蓮根餅夏野菜餡かけ」など10品の会席料理に舌鼓を打ち、入浴や玉造温泉街を散策するなど思い思いに楽しみました。

参加者は「プロの落語は聞き応えがあった。料理も豪華で、ゆったりとした時間を過ごすことができよかった」と話しました。

▲笑いに包まれる会場

中国茶の味と香りを楽しむ サンサン女子大が講座開催！



中国茶について解説する池田講師

くにびきサンサン女子大は7月24日、「ようこそ中国茶房へ」講座を開催し、学生39名が中国茶の奥深い世界を学びました。

この講座は、本格的な中国茶の香りや味を楽しむことで、関心を深め、新たな趣味や生活の楽しみにもなると計画したもの。

当日は、東茶町の中国茶専門店「雲悠茶房」で店主を勤める、高級茶藝師の池田和人を講師に招きました。その後、香りや味を楽しむ独特の方法を教わりながら、数種類の中国茶を飲み比べたり、中国茶に合うお菓子を楽しんだりするなど、ゆったりと落ち着いた時間を過ごしました。

池田さんは「中国茶は種類が豊富。香りや味の違いを楽しむ、お気に入りを見つけたい」と呼びかけました。

参加した学生は「奥深い中国茶の世界を知ることができた。今回の講座で興味が湧いたので、今後中国茶を飲むのが楽しみ」と話しました。



香りや味を楽しむ学生

くにびき女性部親睦研修旅行開催 83名が交流を深める

くにびき女性部（中島和子・758名）は7月6日、親睦研修旅行を実施し、広島県で銀河ランチクルーズを楽しむなど、仲間との交流を深めました。

当日は、部員83名がバス2台に分乗し出発。広島港から「銀河」に乗船し、厳島神社がある宮島へ向け、出航しました。シェフ自慢の「仔牛のロースト夏野菜のグレック添え」などのコース料理を堪能しながら、宮島厳島神社の大鳥居沖では船を停泊させ、船上からの参拝や記念撮影を楽しみました。

その後、大正14年に創業し、もみじまんじゅうを作り続けてきた「藤い屋」直営の工場やショップが並ぶ、「IROHA village」で工場や施設を見学した後、試食や買い物など、思い思いの時間を過ごしました。

参加した部員は「天気もよく、日頃はなかなか体験できない船の旅を満喫することができた。お土産もたくさん買えたので満足」と笑顔で話しました。



ランチクルーズを楽しむ参加者



くにびき女性部がお届けする 松江に伝わるふるさと料理

松江に伝わる郷土料理を次代へ伝承していくため各地区のメニューを季節ごとに紹介します。



みょうがだけの酢みそ和え

みょうがだけは名前の如く竹のように細長く先が緑色をしています。土の上ですくもを敷き長く伸びる様に栽培されています。普段店頭に出回っているみょうがは、少しピンク色で長丸の形をしており、根本付近のつぼみ部分を食用としますが、みょうがだけは若い茎の部分を利用します。

みょうがの酢の物はよく調理しますが、味噌とじゃこを合わせることで豆腐やごはんに乗せ、いつもと違う食べ方で召し上がっていただけます。

【材 料】(4人分)

みょうがだけ……50g じゃこ………20g
(調味料)
みそ………大さじ2 らっきょう酢……大さじ2
みりん………大さじ1

【作り方】

- ①みょうがだけを小口切りにする。(白い部分だけ)
- ②調味料を合わせ酢みそを作る。
- ③酢みその中に、みょうがだとじゃこを入れ混ぜ合わせて完成。



今月の料理人

八雲支部
(前列左から)石倉久美子さん、
藤田弓子さん、伊藤法子さん
(後列左から)金崎京子さん、
岩田悦子さん、山根静枝さん



緑の部分は硬いので、白い部分のやわらかいところのみを使用することで食べやすくなります。

参加者募集!

サン●サン 料理教室

日時

2019年9月27日(金) 10:00~13:00

※定刻になり次第開始しますので、時間に余裕をもってお出かけください。

場所

くにびき地区本部
San・san館

松江市西川津町1635-2

おいしい!速い!簡単!

食材の水分を最大限に利用し、
食材本来の旨みを引き出すムスイ鍋を
使って料理してみませんか!



9月のメニュー 「ムスイ鍋を使って!」

★チキンカレー ★キャロットライス ★すじ肉のボン酢

★キャベツたっぷりとんべい焼き ★お手軽ブラウニー

(メニューは都合により変更させていただくことがあります)

募集人数 25名程度

組合員、利用者、松江市民の方を対象に募集します。(男女を問いません)

参加費 1,200円 (当日現金にて申し受けます)

準備品 エプロン・三角巾・マスク・筆記用具など

申込締切 2019年9月20日(金)

お申込み/お問い合わせは

①住所②氏名③電話番号をご記入の上、ハガキまたはFAX、Eメールでお申込みください。

〒690-0823 松江市西川津町1635-1

くにびき地区本部企画総務部ふれあい課・サンサン料理教室係

TEL: (0852) 55-3018 FAX: (0852) 32-6870

E-mail: community-affairs.kun@ja-shimane.gr.jp

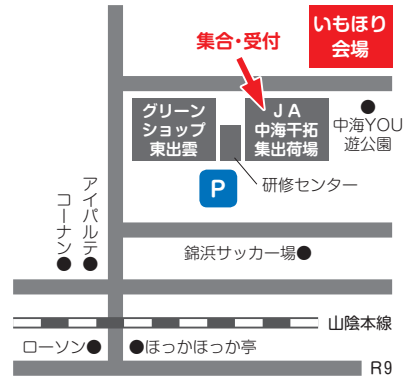
第30回 ふれあい親子いもほり大会

参加者募集

日時 令和元年10月13日(日) 9:30集合 10:00開始
集合 「JA中海干拓集出荷場」 松江市東出雲町錦浜431-2
会場 「中海干拓地」 集合・受付後徒歩にて移動

9:30~集合・受付
 受付後会場へ徒歩にて移動
 10:00~いもほりスタート
 ★ジャンボいもコンクール
 ★女性部特製みそ汁販売
 12:00頃 終了

- ◆参加費：5歳以上1人につき500円（当日、現金にて申し受けます）
- ◆募集数：幼稚（保育）園・小学校の園児・児童とその家族 200名
- ◆参加申込：下記申込書に必要事項ご記入の上、最寄りのJAしまねくにびき地区本部支店・ふれあい店・ふれあい課まで、お申し込みください。FAXでも受け付けます。
- ◆応募締切：令和元年10月1日（火）必着 ※応募者多数の場合は先着順とさせていただきます。
- ◆ご持参品：移植コテ・水筒・敷物をご持参ください。
- ◆注意事項：(1)収穫袋は主催者で準備し、受付にて配布します。配布する袋以外での収穫は禁止します。
 (2)本大会は、親子で大自然の中の「ふれあい」を目的に実施しています。大人の「芋収穫」だけの参加はご遠慮ください。また、クワ・スコップの持ち込みはお断りします。
 (3)当日限定緊急連絡先：090-6835-5233
 (4)少雨決行いたします。天候不順等による開催の可否につきましては当日の午前7:00にHPにてお知らせします。
 HPは「くにびき地区本部」で検索 HP用QRコード⇒



お問い合わせはくにびき地区本部 企画総務部 ふれあい課 TEL：(0852) 55-3018 FAX：(0852) 32-6870

第3回 JAしまね くにびき地区本部 本部長杯 ふれあいゴルフコンペ

参加者募集中!

開催日：令和元年10月2日(水)
 場所：島根ゴルフ倶楽部
 出雲市美野町1652 Tel.0853-67-0016
 参加費：2,000円
 プレー費：各自精算（キャディ無し、コンペバック）
 メンバー6,700円、ビジター8,200円
 募集定員：16組 64名程度
 申込先：くにびき地区本部 各支店・店まで
 申込期限：令和元年9月13日(金)
 表彰式：島根ゴルフ倶楽部
 その他：スタート時間及び組合せは後日ご案内いたします。

皆様のご参加お待ちしております

【事務局】 くにびき地区本部 企画総務部 ふれあい課
 〒690-0823 松江市西川津町1635-1 TEL(0852)55-3018 FAX(0852)32-6870 E-MAIL: community-affairs.kun@ja-shimane.gr.jp

くにびき地区本部松江支店店舗統廃合のお知らせ

このたび、松江支店は令和元年9月14日（土）に廃止し、9月17日（火）より川津支店へ統合いたします。永い間ご利用頂き厚く御礼申し上げます。なお、松江支店口座をご利用の皆様へは個別に通知いたします。これに伴い、9月13日（金）・14日（土）の2日間、ATM営業時間が下記のとおり変更となります。組合員・利用者の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

該当ATM	9月13日（金）	9月14日（土）
松江支店（くにびき地区本部本店）	8:45~15:00	休止
イオン松江店	9:00~13:30	通常通り

今月の特選車

スバル JAサンバートラック

（年式）平成30年式
 （走行）5,600km
 （車体色）白 5MT 4WD
 （車検）令和2年5月
 （装備）AC PS ラジオ
 （車両本体価格）830,000円（税込）
 ※すでに売却済みの場合はご容赦下さい。（諸費用別途）



お問い合わせ先は 自動車センター TEL:55-3077

9月くにびき地区本部 各種相談会カレンダー（税・ローン）

※各相談とも無料で
お受けしています。

日	曜日	相談会内容	場所・時間
5	木	税務相談会	川津支店（TEL：23-2424）10:00~12:00
6	金	税務相談会	東出雲支店（TEL：52-2022）10:00~12:00

※税務相談会のご予約は、開催日2日前までをお願いします。予約先:開催会場となる支店・店

○くにびき地区本部金融共済部ローン営業センターでは、土曜日（10:00~15:00）に休日住宅ローン相談を実施しています。要予約。

※9月の土曜営業日は7日、21日です。

◆お問い合わせは

☎0120-988-380

9月 ふれあい訪問日

9月18日(水)・19日(木)

タテのカギ

- ① テレビのリモコンにはたくさん付いています
- ③ くだらかな——が続く丘陵地
- ⑥ 合唱部が練習するもの
- ⑦ 耳かきと共に行方不明になりやすいそうです
- ⑧ 今からこれじゃ、——が心配だなあ
- ⑩ 仲人から紹介を受けて、伴侶候補と会います
- ⑭ 宴会でグラスをみんなで掲げて……
- ⑯ 相撲の勝敗を記録した——表
- ⑱ ゴホゴホゴホ
- ⑲ 価格が高くなること
- ⑳ 煮物などに使う、アルコールを含む調味料

ヨコのカギ

- ① 9月1日は——の日。非常持ち出し袋や避難経路を確認しましょう
- ② 高知の名物料理、カツオの——
- ③ 皮膚の表面にある細かな模様。——の細かい肌
- ④ 食器を拭く布です
- ⑤ いがに守られた実がなります
- ⑦ 晴れた十五夜にはとても明るい
- ⑨ 矢を射る道具
- ⑪ 陽の反対語
- ⑫ 国や地方自治体に納めます
- ⑬ 首都はモスクワ。大きな国です
- ⑮ 肉料理に添えたり、刻んでスープに浮かべたりする香草
- ⑯ 傘にも凧(たこ)にもあります
- ⑰ バラの茎にある突起

二重マスの文字を A ~ E の順に並べてできる言葉は何でしょうか？

1	6	8			16	19
2				13		
		9	10		17	
	7			14		
3			11			20
4				15	18	
5			12			

答え

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

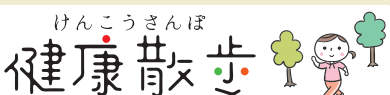
応募要項

- 応募方法 ハガキに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本誌に関するご意見・ご感想を記入して、下記宛先にお送りください。
- 賞品 正解者の中から抽選で40名（JAしまね全体）の方に「JA商品券」をお贈りします。
- 当選者発表 賞品の発送をもってかえさせていただきます。
- 宛先・締切 〒690-0823 松江市西川津町1635-1
JAしまね くにびき地区本部 ふれあい課 「クイズ」係
2019年9月5日（木）（当日消印有効）

先月号の答え 「キモダメシ」

1	リ	5	ツ	シ	ユ	ウ	カ
2	マ	ッ	チ	マ	キ		
3	シ	ミ	ジ	ユ	コ		
4	ユ		マ	モ	ウ	オ	
5	ク	ロ	ウ	ト	バ	リ	
6	ダ	ウ	ン	カ	ン		
7			ト	ウ	メ	ダ	ル

・お預かりした個人情報は、プレゼントの抽選・発送以外の目的で利用することはありません。



要注意、熱中症

JA島根厚生連

毎日暑い日が続いていますね。夏は熱中症に注意が必要です。重症化すると命に関わります。熱中症の症状を理解し、予防に努めましょう！

● 熱中症は、高温多湿な環境に私たちの身体が適応できないことで生じる様々な症状の総称です。以下のような症状が出たら、熱中症にかかっている危険性があります。

- | | | |
|--|------------------------|--------------|
| 1. めまいや顔のほてり | 2. 筋肉痛や筋肉のけいれん | 3. 体のだるさや吐き気 |
| 4. 汗のかき方がおかしい（何度拭いても汗が止まらない、まったく汗が出ないなど） | | |
| 5. 体温が高い、皮膚の異常 | 6. 呼びかけに反応しない、まっすぐ歩けない | 7. 水分補給ができない |

このような症状が出ないように、日頃から熱中症の予防・対策をおこないましょう。

● 熱中症の予防のための 3つのポイント

- ① 脱水対策——のどが渇かなかつたり、汗をかかなくても水やお茶などでこまめに水分補給します。大量に汗をかくと、汗とともに塩分（ナトリウムなど）も失われます。その場合は、水分に加え、塩分補給が必要です。スポーツドリンクを利用してもよいです。入浴時や睡眠時にも汗をかいているので、入浴前後、寝る前、起床時にも水分を補給しましょう。
- ② 体の内部の温度を上げない——外出するときは、11～15時ごろの日中の暑い時間帯を避けます。また、外出や屋外での活動をする場合は、天気予報や環境省の「熱中症予防情報サイト」で、暑い日や時間帯を確認するとよいでしょう。外出したら、こまめに涼しい場所での休憩をはさみ、水分補給をします。
- ③ 室内を涼しくする工夫——熱中症の約40%は室内で起きているというデータもあります。部屋はカーテンなどで日ざしを遮り、エアコンと扇風機を併用して温度を下げましょう。特に高齢者は、暑さを感じにくい場合があります。温度計や湿度計を使って数字で確認し、温度は28℃、湿度は70%を超えないようにします。

正しい理解・適切な予防で、暑い夏を乗り越えましょう！！

ハチを見かけたら巣づくり警報!

無料調査
ハチ駆除

近寄らず、触らず!!
ハチの駆除はプロにお任せください。

ハチの駆除をご希望の方は
最寄りのJAまでご連絡ください。
JAしまね取扱業者(株)コダマサイエンスの
地区担当者が訪問させていただきます。



お問い合わせ先

最寄りのJA各支店・
支所にお問い合わせ
ください

取扱業者

(公社)日本しるあり対策協会企業登録(島根県002・鳥取県002)

Kodama 株式会社 コダマサイエンス

■本社 / 島根県松江市西嫁島2-8-23 ☎0852-43-0852

■松江営業所 / ☎0852-26-6757 ■江津営業所 / ☎0855-52-6852

■益田営業所 / ☎0856-22-5390 ■隠岐営業所 / ☎08512-2-2471



**島根県立農林大学校
入学試験実施のお知らせ**

- 募集人員** ①農業科(有機農業・野菜・花き・果樹・肉用牛) / 40名【修業年限2年】
- ②林業科 / 20名【修業年限2年】
- ③短期農業経営者養成科 / 5名【修業年限1年】

- 試験日** 学校長推薦 / 令和元年10月30日(水)
- 一般前期 / 令和元年12月11日(水)
- 一般後期 / 令和2年2月13日(木)
- 地域推薦 / 随時
- 自己推薦 / 令和元年10月30日(水)、31日(木)
- ※一般後期試験は実施しない場合があります。

- 試験会場** 島根県立農林大学校 (大田市)

◆詳しくは◆
農林大学校の
ホームページ、または
農林大学校
☎0854-85-7012
まで。



簡単ガパオライス



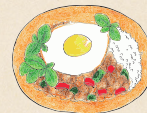
ご飯の上にピリ辛いひき肉を乗せ、目玉焼きと一緒に食べるタイ料理の定番ご飯「ガパオライス」です。日本人の口にも合う味です。暑い夏にピッタリの料理で、フライパンひとつで作れるので、サッと手早く食べたい時にもおすすめです。

●材料（2人分）

鶏ひき肉……………	180g	赤唐辛子（小口切り）……	1本
酒……………	大さじ1	卵……………	2個
赤パプリカ……………	1/2個	オイスターソース、ナンプラー……………	各大さじ1
ピーマン……………	60g	砂糖……………	小さじ1/2
玉ねぎ……………	60g	サラダ油……………	大さじ1
バジル……………	20枚	ごはん……………	2人分
にんにく（みじん切り）…	5g		

●作り方

- ①玉ねぎ、ピーマン、赤パプリカは1cm角切り。
- ②フライパンにサラダ油、にんにく、赤唐辛子を入れ香りをだす。
- ③鶏ひき肉を入れ、酒をふりかけて炒める。
- ④玉ねぎ、ピーマン、赤パプリカを入れ炒め、しんなりしたら①の調味料を入れる。
- ⑤手でちぎったバジルを軽くまぜ、火を止める。
- ⑥目玉焼きを焼く。
- ⑦皿にごはんを盛り、⑤と目玉焼きをのせる。

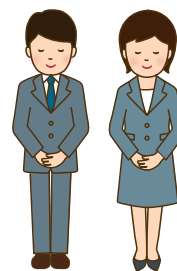


JA共済ご加入時におけるおさいふカードへのポイント付与廃止のお知らせ

平素はJAしまねをご利用いただき、誠にありがとうございます。

さて、当JAでは、新規でJA共済にご加入いただいたご契約者のみなさまに、「おさいふカード」へのポイント付与を行っておりましたが、**行政庁の指導により**、令和元年9月30日までの新規共済契約をもちまして、おさいふカードへのポイント付与を終了させていただきます。何卒ご了承いただきますよう、よろしくお申し上げます。

今後も組合員・利用者のみなさまにご満足いただけるサービスの提供に努めてまいりますので、変わらぬご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



表紙紹介

表紙のイラストは野々村 直通（ののむらなおみち）先生に描いていただいています。

今月の表紙は大田市三瓶町の「浮布池」です。浮布池は、三瓶山の堆積物が谷の出口をふさいで出来た堰き止め湖で、池の南岸近くにある中の島には瀬幣姫神社（にべひめじんじゃ）が祀られています。池の北岸からは水面に浮かぶ神社の鳥居が望め、幻想的な風景が当地に伝わる女性と大蛇の悲恋伝説を連想させます。

編集後記

本店トピックスでご紹介した「アグリミーティング」と「大産直市」。私も高校生ブースを見学しましたが…、高校生たちがキラキラした眼差しで商品を説明してくれると買わないわけにはいきませんよね。おすすめされるがまま、ついつい買すぎてしまいました。後悔はありません。おじさんは格好をつけたかったのです。高校生のみんな！おいしかったよ！（和）

【今月の表紙の原画】

レイアウトの都合により表紙のイラストは原画の一部表示となっています。原画の全体は次のとおりです。

